

2011年7月12日

調査報告書

- 1 とき：2011年7月12日
- 2 行先：名古屋港の耐震岸壁・高潮防潮堤
- 3 参加者：わしの恵子・山口清明・さはしあこ、政務調査補助員
- 4 主な内容
 - ・ 名古屋港管理組合の港務艇で名古屋港を海から視察。
 - ・ 飛島ふ頭南側や鍋田の耐震強化岸壁をはじめ、高潮防波堤（鍋田堤・知多堤・中央堤）、遠隔操作で無人化されたコンテナターミナル（TCB）、山積みされた大量のコークス、などを海から見る事ができた。
 - ・ 震災津波対策として、大量のコンテナ（仙台港では遠くまで流出）、港で働く人の避難場所（名古屋港では住民がいないので避難は想定していない。観光客の避難程度の想定で動きだしている程度、働く人の避難誘導はあくまでその地域の自治体の責務）、防波堤や防潮壁の沈下問題（内陸で最大2m沈下しており、海溝型地震発生の場合液状化により最大2.9m沈下すると結果が出ている）、整備後約50年経過経年による劣化・耐震性など（知多堤は鉄筋が露出しているところもある）、まだまだ問題が多く、議論が必要。
 - ・ 東海市や知多市、弥富市、津島市、大治町の各議員や本村伸子さんも参加。
 - ・ 調査後、参加議員団で懇談。東海市からは、新病院が海岸に建てられるが大丈夫なのか心配とか、大治町からは新川が地震で決壊したら名古屋の水道浄水場が大治町内にあるが、電源喪失でポンプ圧送ができなくなる。ディーゼルエンジンでも1日しか持たないなどの状況が報告されました。

図1 視察船 デッキ



図2 視察船 船内説明



図3 水族館



図 4 飛島ふ頭南側 16 m 第 1 バース 図 5 鍋田ふ頭 アジア航路が中心
14 m



図 6 鍋田堤 突端



図 7 鍋田堤 地盤沈下でかさ上げしている



図 8 知多堤 突端 海釣り公園



図 9 知多堤 突端



図 10 知多堤の浮き出た鉄筋